風の尾根

大石 修

天空と奈落を画すななかまど
霧霽れてさらに険しき巌かな
一条の蔦を標に岩を這ふ
忽然と機関車出づる紅葉山
木の橋の沼の祠や神渡し

中天の雲を飾ひて初時雨
早起きの過ぎたる朝の冬銀河
風の尾根耳に鋭き鷹の声
しぐるるや坂か石段かと迷ふ
柊の花こぼれたる今朝の池
冬の日を額に集め鯉肥ゆる
裸木の影に追はるる甲斐路かな